

神無月を迎えて

分所長 高木敏彦

衣替えの候になりました。今年も暑い夏が長く続き、涼しいはずの秋が短くなり冬が訪れてしまうという四季を感じる事が無くなってしまうたかのような最近の日本です。気候の変化についていけず体調を崩してしまうことの無いようにご留意ください。

さて、来月は分所の秋季大祭を十日に迎えます。「家族の皆さんと一緒に祖霊様の合同慰霊祭にご参拝下さい。そして、楽しくご歓談をして一日をお過ごしください。」

奇魂(くしみたま)を生かして

出口 直日

始めから霊的なものに頼ることはあまりよいことではありません。たとえば、始めから「霊夢」にたよるとか、あるいは、霊がかりの人の指導にすぎるとかではいけないとおもいます。それは、いろいろ不思議なことはあります。始めから不思議に頼ることは考えものです。

もともと人間の知恵は知れているものでしようが、人間は、与えられた知恵に奇魂を生かして、努力するのだからいけなないとおもいます。その上で、「この世のくしびな神さまのお光りによって導かれるのでないといけ

ないとおもいます。そういう人間的な努力をぬきにして霊の不可思議に魅せられてしまうと、いつかはひどい目にあうことがあるものです。わたしはそういう実例をいくつも見せられています。

聖言にあります(人間心)というお言葉を単純に受け取ってはいけないと思います。「人間心をふり捨てて、他力の神に身を任せ」というのも、わたしたち人間にたいする大局的な態度を言われたもので、とにかく、一切を神さまにお任せして、そうした態度の中で、人間はできる限りの努力をし、そのぎりぎりのところから先は、神さまのお力をいただくというのを諭されたものです。

“学”をいましめられ、(神と学との力くらべ)ということも、学をきわめて神に通ずることを言われたもので、途中でどどまって鼻高になってしまふことの危険を戒められたお言葉であるとおもいます。

現実社会の中で、世のためになる、みんなの喜ぶ、しなければならぬものを一生の仕事として、一途にやらしてもらおうことによって、到達できるというのが本当の信仰であろうとおもいます。

「寸葉集」より

上も下もよくなれよとの大本の

りに思ふ

神のみ教をしき

主な行事予定

10月6日(日)

梅松苑月次祭・長生殿にて献茶式

10月13日(日) 午後1時半より

碧南分所月次祭 担当第3班

10月18日(金)

香良洲神社・大本友好記念碑除幕式

10月18日(金) 午前10時半より

霊界物語全国一斉拝読会

10月20日 午後7時半開始

三河本苑秋季大祭・祖霊慰霊大祭

11月3日(日)

開祖大祭

11月10日(日)午前10時半より

碧南分所秋季大祭・祖霊合同慰霊祭

11月17日(日) 午前10時より

三河本苑月次祭

10月の誕生者

おめでとついでいます!

澤田 多鶴子 2日 坂部 彰紀 4日 鈴木 勝

一郎 5日 岡本 眞 14日 澤田 鼓太呂 1

9日 榊原 武彦 20日 天内 緋佳里 22日

栗津 誠 24日